

豊橋技科大の後藤 助教らへ助成金

矢崎科学技術振興記念財団

矢崎科学技術振興記念財団(尾崎護理理事長)は9日、都内で第34回「研究助成金贈呈式」を開き、豊橋技術科学大学大学院

工学研究科電気・電子情報工学系の後藤太一助教が「KW級スピコン変調型Qスイッチレレーザ」の開発で奨励研究助成金を受領した。

同財団は自動車部品など製造販売の矢崎総業(東京都港区)が1982年に設立。毎年「エネルギー」「新材料」「情報」3分野の研究を対象に、若手研究者のための「奨励研究助成」(1件100万円)と「一般研究助成」(同200万円)「特定研究助成」(同1000万円)を贈っている。

今年度は計150件の応募があり、うち奨励研究助成では、48件の中から10件(新材料7・エネルギー2・情報1)が助成先に選ばれた。

うち後藤助教が開発したQスイッチレレーザは、手のひらに乗るサイズでありながら、キロワット以上の光パワーを出力できる装置として応用が可能。世界初という磁気光学効果を持つMO膜を使って、Qスイッチレレーザを発振することに成功したもので、ドメイン駆動を利用した点も評価された。この小型高出力レレーザが実用化されれば、細分化・多重化する一方の製豆開発工程を簡略でき、宇宙産業などにも大きく寄与できるといふ。

(藤田彰彦)